

鳥類研究者Yurii Viktorovich Shibaev, 85歳, について

A. A. Nazarenko & T. V. Gamova

Yurii Viktorovich Shibaevは1937年6月27日にハリコフで生まれた。彼の父Viktor Nikolaevich Shibaevは技師で、航空機、トラクター、自動車を製造する様々の工場で働き、大祖国戦争ではスターリングラードの防衛にあたった。彼の母Revekkka Isakovna Zverevaはウクライナ医科大学で助手として働いていた。



学生Yurii Shibaev20歳, 1957年.

Yuriiは1954年に学校を終えると、ハリコフ大学生物学学部に入り、その後の専門課程では脊椎動物学科を選択した。在学中、彼は大学の生物学ステーションで野外鳥類学の実習を行い、学科の学術調査に参加した。学生Yurii Shibaevが参加した最初の学術調査は、1957年のクリミアにおける動物学術調査で、2回目は1958年の西カフカスにおける学科の学術調査であった。しかし、彼と恋人の同級生は遙か彼方の地に憧れていた。極東地方に関する著書を読んだ。そして1959年に大学を卒業すると、Yurii Viktorovichは妻であり同僚であるNatal'ya Mikhailovna Litvinenkoとともに極東の沿海地方に赴いた。最初に極東へNatashaがやってきたが、彼女はそこでブッポウソウについて卒業論文研究をしたスプチンスク(現・ウスリースク)自然保護区で実習をしており、彼女に続いてYuriiがやってきた。彼らは国立スジュヘ自然保護区(現・国立Kapranov記念ラゾ自然保護区)で鳥類の研究を始め、1963年3月まで下級研究員のポストで働き続けた。その後彼らは1965年にソ連科学アカデミー極東科学センター・生物学土壌学研究所の附属機関となったケドロヴァヤ・パジ自然保護区の研究員として働いた。そして1967年からYurii ViktorovichとNatal'ya Mikhailovnaは当時Gordei Fedorovich Bromlei(1906～1982)が指導していた生物学土壌学研究所の脊椎動物学研究室のスタッフとなった。

このように、Yurii Viktorovichのすでにほぼ60年にわたる研究活動は、われわれの研究所、現在のロシア科学アカデミー極東支部・東アジア陸域生物多様性共和国科学センターにおいて行われた。鳥類研究室は、脊椎動物学研究室の鳥類研究者のグループの「行政的ランク」の格上げで1989年3月に正式に設立された。

そのため、この研究室はロシア極東南部における今日まで唯一の学術的な鳥類研究室で、研究課題は必然的に地域の鳥類学の緊急的な諸問題であった。第一に、これは海鳥の研究である。Yu. V. ShibaevとN. M. Litvinenkoは、極東南部ではこの分野における一般に認められたリーダーであった。第二に、課題はレッドデータブックのいろいろのランクにある種やロシアやアジアの国々と共通する種の生態研究である。

Yurii Viktorovichは、絶滅のおそれのある稀少種の研究と保護の分野では著名で権威ある専門家である。彼のおもな研究地は、極東海上自然保護区で、研究対象は海鳥と水辺の鳥類である。

ソ連科学アカデミー常任委員会により、1976年8月30日から生物学土壌学研究所は極東における日ソ渡り鳥等保護条約に基づく科学研究の管理者になることが認められた。これらの研究の開始、組織、実施で大きな貢献をしたのが、Natal'ya Mikhailovna LitvinenkoとYurii Viktorovich Shibaevである。これらの研究の調整の成功により、生物学土壌学研究所刊行のテーマごとの論文集に研究成果を素早く発表できた。

1980年からYu. V. Shibaevはロシア極東南部におけるツル類研究グループ(RGZ)のコーディネーターとなった。最初の10年間でRGZの活動は、ツル類の稀少種の分布域を明らかにし生息数を推定する大規模(とくに軽飛行機の使用)のプロジェクトを実現した。その成果として、6回の会議が行われ、6冊のテーマごとの論文集が刊行された。国際ツル保護基金の援助にさいしても、Yu. V. Shibaevが参加し、極東のツル自然保護区2か所、とくにタンチョウが主要な保護対象となるハンカ湖のロシア-中国の自然保護区が設立された。

Yu. V. Shibaevは、BirdLife International Asia後援の国際プロジェクト“Marine IBA (Important Bird Areas indicated by seabirds) conservation Program in the Asia region”(2012-2013)、ロシア極東の海上IBAに係る研究会議、研究グループに加わった。



2000年の始まりのさいのロシア科学アカデミー極東支部・生物学土壌学研究所の鳥類研究室の研究者。左から右へ、後列A. A. Nazarenko, V. A. Nechaev, V. N. Chernobaeva, A. V. Kosmach, O. P. Val'chuk, 前列Yu. V. Shibaev, S. V. Gafitskii, N. M. Litvinenko, S. G. Surmach.

Yurii Viktorovichは国際連合のプログラムと「保護地域の海上と島、例えば極東海上自然保護区におけるモニタリングの試みと必要性、様々の種の保護管理の分析」プロジェクトに関する国際生態学基金のメンバーで、自然保護区とその周辺の島で海鳥のコロニーのモニタリングを行った。2008～2012年に「ロシアとアジア・太平洋地域の国々に共通するレッドデータブック記載鳥類の個体群のモニタリング」部門の共同責任者となった。2009～2010年にはプロ・ナツラ基金(日本)の助成で「Revision of Black-Faced Spoonbill population in Russian sector of the Sea of Japan」を実施した。

Yu. V. Shibaevは著者として次の共著のモノグラフの執筆に加わった。1) BirdLife International. 2001. Threatened birds of Asia: the BirdLife International Red Data Book. BirdLife International, Cambridge, UK. 2) ロシア共和国レッドデータブック：動物。2001。バルハシハ、アギンスコエ。3) 沿海地方レッドデータブック：動物：動物の稀少・絶滅のおそれのある種。オフィツアルノエ出版, 2005, ウラジオストク, 4) ロシアと周辺地域の鳥類：ペリカン目, コウノトリ目, フラミンゴ目。2011。モスクワ。5) ロシア共和国レッドデータブック：動物。2021。第2版。モスクワ。



国際タンチョウ空中調査のさい、日本の参加者と。Yu. V. Shibaevは左から3人目。2003年3月14日。



春の渡り時におけるツル調査。豆満江で。左はS. N. Gafitskii, 右はYu. V. Shibaev。2021年3月10日。

またYurii Viktorovichは約200編の論文の著者・共著者で、下に彼のおもな科学的な関心を示す業績を選んで挙げる。

2編の充実した著書：A. A. Nazarenko「ロシア科学アカデミー極東支部・生物学土壌学研究所における鳥類研究：過去と現在」(2012)とV. N. Bocharnikov, V. A. Nechaev & Yu. N. Glushenko「ロシア極東の鳥類の国際的研究と保護の50年」(2014)には、ロシアとアジア・太



Yu. V. Shibaev(左)とS. G. Surmach(右). ロシア科学アカデミー極東支部・東アジア陸域生物多様性共和国学術センター. 2016年12月29日.



ロシア科学アカデミー極東支部・生物学土壌学研究所の鳥類研究室の研究者. 左から右へ, 前列: Yu. V. Shibaev, V. A. Nechaev, A. A. Nazarenko, 二列目: V. N. Chernobaeva, T. V. Gamova, A. V. Kosmach, 三列目: S. G. Surmach, A. B. Krudyukov, E. F. Morozova. 2003年3月20日.

平洋地域の国々に共通する保護を必要とする稀少鳥類の研究やロシア極東南部における新たな自然保護区の設立でのYu. V. Shibaevの大きな貢献も含め、鳥類研究室の研究者の貢献に関するあらゆる情報が盛り込まれている

Yurii Viktorovichは、高齢であるにもかかわらず相変わらず若い研究者と一緒に学術調査の「戦列」にいるのが見られるのは喜ばしい。最近当人自身は確実に気付いている、「現在の鳥類研究室のスタッフには不要な人物はいない」と。

Yu. V. Shibaevの業績

Litvinenko N M & Shibaev Yu V (1965) プリモリーエ南部の数種の稀少鳥類について。

Ornitologiya 7: 115-121.

Litvinenko N M & Shibaev Yu V (1971) スジュヘ自然保護区とスジュヘ川沿いの鳥類相。

極東南部の鳥類の生態と鳥類相, 127-186.

Shibaev Yu V & Litvinenko N M (1971) ハサン地方(南プリモリーエ)の水域における渡る

カモ類の特徴。極東南部における鳥類研究, 123-142.

Shibaev Yu V & Gluschenko Yu V (1982) 沿ハンカ湖平野におけるタンチョウの現状と保

護問題。東アジアのツル類, 35-43.

Shibaev Yu V (1987) ピョートル大帝湾(日本海)の数種鳥類のコロニーの調査とモニタリン

グ。極東の海鳥の分布と生態, 43-59.

Shibaev Yu V & Trukhin A M (1988) 1986年ピョートル大帝湾沿海地方)におけるワシ類,

*Haliaeetus pelagicus*と*H. albicilla*の冬の生息数調査。極東の稀少鳥類と保護, 117-119. [極東の鳥類20]

Nechaev V A & Shibaev Yu V (1989) 鳥類。ソ連極東の稀少脊椎動物とその保護, 36-173.

Shibaev Yu V (1990) カンムリウミスズメ*Synthliboramphus wumizusume* Temminck, 1835.

ソ連の鳥類, ウミスズメ類, 104-107. モスクワ.

Shibaev Yu V, Litvinenko N M & Nazarenko A A (1996) 20世紀中期におけるトモエガモ生

息数の激減。ロシア極東南部の淡水域と沿岸部の鳥類とその保護, 179-197. [極東の鳥類19]

Litvinenko N M & Shibaev Yu V (1996) 鳥類の多様性維持についての豆満江下流部の意義:

国立公園設立と国際的価値のある水域・湿原の理解のための資料。ロシア極東南部の淡水域と沿岸部の鳥類とその保護, 9-75.

Shibaev Yu V (1996) ピョートル大帝湾(日本海)の鳥類—保護の問題(国立公園設立の資料)。

ロシア極東南部の淡水域と沿岸部の鳥類とその保護, 32-41.

Litvinenko N M & Shibaev Yu V (1996) 豆満江下流部の鳥類とその保護。ロシア科学アカ

デミー極東支部報告1: 88-94. [極東の鳥類36]

Litvinenko N M & Shibaev Yu V (1999) カラシラサギ*Egretta eulophotes*, ロシアにおけ

る新繁殖の種。Russian Journal of Ornithology 8 (70): 7-9. [極東の鳥類19]

Litvinenko N M & Shibaev Yu V (1999) プリモリーエ最南西部における鳥類の新発見と観

察。Russian Journal of Ornithology 8(71):9-16.

Shibaev Yu V (2001) オシドリ。ロシア共和国レッドデータブック: 動物, 414-415.

Shibaev Yu V (2001) アカハジロ。ロシア共和国レッドデータブック: 動物, 415-416.

- Nechaev V A & Shibaev Yu V (2005) クロツラヘラサギ, ロシアの鳥類相における新種. *Russian Journal of Ornithology* **14** (288): 442-443.
- Litvinenko N M & Shibaev Yu V (2005) クロツラヘラサギ. 沿海地方レッドデータブック: 動物, 稀少・絶滅のおそれのある動物, 209.
- Shibaev Yu V (2005) タンチョウ. 沿海地方レッドデータブック: 動物, 稀少・絶滅のおそれのある動物, 258-259.
- Shibaev Yu V (2005) マナヅル. 沿海地方レッドデータブック: 動物, 稀少・絶滅のおそれのある動物, 260-262.
- Shibaev Yu V & Gluschenko Yu V (2005) ヴェルホフ島とカラムジン島. ロシアの水域・湿原, 5. ロシア極東の水域・湿原, 106-108.
- Shibaev Yu V & Litvinenko N M (2005) カンムリウミスズメ. 沿海地方レッドデータブック: 動物, 稀少・絶滅のおそれのある動物, 290-291.
- Shibaev Yu V & Litvinenko N M (2007) 豆満江下流部—国際的な価値のある水域・湿原, もう一度保護の問題について. 豆満江下流部の持続的な自然利用の諸問題. 国際学会資料, 90-98.
- Shibaev Yu V (2009) ウミスズメの幼鳥の海上への降下と海上生活への移行. *Russian Journal of Ornithology* **18** (459): 105-111.
- Shibaev Yu V (2009) ハンカ湖のタンチョウ. *Russian Journal of Ornithology* **18** (534): 2241-2242.
- Litvinenko N M & Shibaev Yu V (2011) クロツラヘラサギ. ロシアと周辺地域の鳥類. ペリカン目, コウノトリ目, フラミンゴ目, 497-507.
- Litvinenko N M & Shibaev Yu V (2011) トキ. ロシアと周辺地域の鳥類. ペリカン目, コウノトリ目, フラミンゴ目, 439-444.
- Shibaev Yu V (2016) リムスキー・コルサコフ諸島. ロシア極東の鳥類海上重要地域, 120-121.
- Shibaev Yu V (2016) フルゲルム島と豆満江デルタ. ロシア極東の鳥類海上重要地域, 122-124.
- Shibaev Yu V (2016) ヴェルホフ島とカラムジン島. ロシア極東の鳥類海上重要地域, 118-119.
- Neifel'dt I A & Shibaev Yu V (2016) サシバ幼鳥の食性について. *Russian Journal of Ornithology* 26, Express-issue (1528):4910-4912.
- Shibaev Yu V (2018) 1966年プリモリーエにおけるサケイの迷行. *Russian Journal of Ornithology* 27, Express-issue (1584):1393.
- Shibaev Yu V & Litvinenko N M Litvinenko (2019) プリモリーエ最南西部における渡り性カモ類の食性. *Russian Journal of Ornithology* 28, Express-issue (1724):405-406.
- Litvinenko N M & Shibaev Yu V (2020) コジュリンの生態. *Russian Journal of Ornithology* 29, Express-issue (1904): 1425-1426. [極東の鳥類40]
- Litvinenko N M & Shibaev Yu V (2020) プリモリーエ南部の数種稀少鳥類. *Russian Journal of Ornithology* 29, Express-issue (1982):4688-4694.
- Litvinenko N M & Shibaev Yu V (2020) 1960年代前半の極東南部における水鳥の渡りと狩猟. *Russian Journal of Ornithology* 29, Express-issue (1993): 5159-5161.
- Litvinenko N M, Shibaev Yu V & Nazarov Yu N (2020) オオミズナギドリ—ソ連の鳥類における新繁殖種. *Russian Journal of Ornithology* 29, Express-issue (1947): 3169-3171.
- Lyuleeva D S, Stepanov V A & Shibaev Yu V (2021) ハリオアマツバメの繁殖と渡りの特徴. *Russian Journal of Ornithology* 30, Express-issue (2111): 4221-4222.
- Surmach S G & Shibaev Yu V (2021) 分布域南東部におけるマナヅル. *Russian Journal of Ornithology* 30, Express-issue (2021):75-77.
- Shibaev Yu V (2021) カラシラサギ. ロシア共和国レッドデータブック, 動物, 第2版, 536-537.

Shibaev Yu V (2021) クロツラヘラサギ. ロシア共和国レッドデータブック, 動物, 第2版, 540-541.

Shibaev Yu V & Gamova T V (2021) コジュリン. ロシア共和国レッドデータブック, 動物, 第2版, 814-815.

<About the ornithologist Yury Viktorovich Shibaev on the occasion of his 85th birthday. Russian Journal of Ornithology 31, Express-issue (2197):2599-2607. (2022) >

[訳注：ロシア人の姓名は名・父称(父の名)・姓で表される。呼びかけるとき、親しい人や目下の人の場合には「名」だけのことが多いが、目上の人や丁寧にする場合には「名・父称」である。例えば、ロシア沿海地方での調査のとき、SurmachさんはNechaev博士に対してはいつも「Vitalii Andreevich」と言っていた。]